

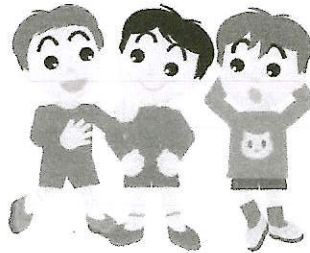
アサーション・トレーニング「三つの話し方」

目的

三つの話し方（「攻撃的な自己表現」、「非主張的な自己表現」、「適切な自己表現」）をロールプレイで実際に演じることで体験的に理解しその特徴や違いを学ぶ。
そして、友達とうまくコミュニケーションをとるためには、「適切な自己表現」（アサーティブな自己表現）が大切であることを知る。

準備

- ・ 三つの話し方シナリオ（資料1）
- ・ ふりかえりカード（資料2）
- ・ ワークシート（資料3）
- ・ 三つの話し方のまとめ（資料4）



進め方

導入

- (1) 人とやりとりするには、三つの話し方（コミュニケーション）があり、それを学習することの意義を伝える。
 - ・ 三つの話し方
 - 「攻撃的な自己表現」（相手を傷つけるコミュニケーション）
 - 「非主張的な自己表現」（自分を傷つけるコミュニケーション）
 - 「適切な自己表現」（バランスのとれたコミュニケーション）
- (2) 児童に対しては、三つの話し方をそれぞれ「いばりやさん」、「おどおどさん」、「さわやかさん」と名付けて説明する。
- (3) このロールプレイのねらいややることを説明する。
 - ・ 教師がデモンストレーションをするとき、他の教師とのTTで役割演技をするなどして、児童のモチベーションを高めるよう心掛ける。（資料1）
- (4) 三つの話し方の確認をする。
 - ・ 三つの話し方が自分や相手をどんな気持ちにさせるか考える。
 - ・ 三つの話し方にはどんな違いがあるか考えさせる。
 - ・ 言い方や声の出し方、態度などを変えることで「いばりやさん」、「おどおどさん」、「さわやかさん」にもなれることを知らせる。

ロールプレイ

- (1) 二人組になり、三つの話し方（資料1）を役割分担してロールプレイをする。（5分間）
 - ・ 三つの役に違いを出すようにして、少しオーバーにセリフを読むだけでなく、役になった気持ちで相手の相手役も、その人の気持ちになる。
 - ・ ロールプレイの場面では演技に対する児童の抵抗が予想される。批判的な態度や意見は控えるよう意識させるとともに、その児童のよい点を認める。
- (2) ふりかえりカードに記入する。（資料2）
 - ・ 三つの役をした人は「1」、「2」の問いに、相手役をした人は「3」、「4」の問いに答える。
- (3) 役割を交代して行う。（5分間）
- (4) ふりかえりカードに記入する。（資料2）